

1. 目的

神奈川県高文連加盟校のすべての生徒が参加できる大会として位置付ける。生徒が自らの感性を生かして、題材を選びアナウンス・朗読・番組で表現・研究し、発表する。さらに多くの学校の生徒がさまざまな場で自分を表現できるように、大会を運営する。また生徒の主体性を尊び、大会順位にとらわれずに生徒間の交流を重視した大会とする。

2. 主催・主管

主催：神奈川県高等学校文化連盟
神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟放送・情報専門部
(神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：tvkテレビ・FMヨコハマ・ラジオ日本・朝日新聞社横浜総局・神奈川新聞社
毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・日本工学院専門学校・神奈川工科大学

3. 参加資格

2017年11月現在、県高等学校文化連盟加盟校に在籍している（「部員」である必要はない）1・2年生とする。ただし情報部門への参加は3年生も可とする。

4. 日時

2017年11月19日(日) 8:30～17:00
 ・作品提出(部門別受付) 8:30～ 8:50
 ※作品提出後、各会場にて会場説明を行います。
 ・顧問打ち合わせ 9:00開始
 ・審査 予選(アナ・朗のみ) 9:30～12:00
 ・情報部門審査・講評 9:30～15:00
 ・審査 アナ朗本選出場者発表 13:00
 ・審査 本選(アナ・朗)・講評 13:15～15:00
 ・審査 本選(AP・VM) 12:00～15:00
 ・閉会式 16:00～17:00

5. 会場：神奈川県立 神奈川総合 高等学校

6. 部門・参加本数・参加費用

	アナウンス	朗 読	オーディオピク チャー	ビデオメッ セージ	情報課題	情報自由
各校参加 本数上限	2本	2本	2本	2本	2本	2本
参加費用	無 料					

7. 決勝進出本数

アナウンス・朗読 各24人

発表は、1時より決勝実施会場受付にて行う。

8. 審査・審査基準

- ①大会審査のため、大会審査委員長をおく。
- ②各部門とも、役員校推薦の教員と特別審査員による審査とする。
- ③特別審査員は、主催・主幹・後援各団体等より推薦されたものから選出する。
- ④審査の観点に基づき、審査を行ない規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ⑤詳細は、審査員および大会審査委員長の協議による。

9. 参加申込

- ①期日：2017年10月7日(土)
- ②会場：神奈川県立 神奈川総合 高校
- ③時間：参加申込 13:30～14:15
- ④参加対象者：学校代表生徒1名、顧問1名
- ⑤提出物：☐参加申込書（要校長印・顧問印）

☐エントリーシート および エントリーシートが入力されたCD

※参加申込書とエントリーシートは『集まれ放送委員会』のWebサイトからダウンロードしてください

注1) 提出物については、くれぐれも間違いや忘れ物のないよう、慎重に準備し、顧問の確認を受けること。

注2) 情報部門のみに出場する場合は、メールでのエントリーも可能です。

出場カードデータ、参加申込書データをメール送信してください。

- ・受付期間：10月1日(日)～ 10月20日(金)
- ・電子メールでの送信時には「校長印」は必要なし
- ・大会当日に校長印が押してある参加申込書を持参する。

※校長印がない学校は大会に参加できません。注意してください。

送付先メールアドレス： chiba-tetsuya @open-kanagawa.ed.jp

※情報部門のみに参加する学校は10月7日(土)の説明会への出席は必要ありません。

10. 大会当日の受付

①プログラムは入口付近にて配布します。

②総文祭受付（各部門会場にて） 8:30～8:50

原稿(アナ・朗1部、番組1部。情報はプレゼンファイルのみ)・CD-R・DVD-Rを封筒に入れ各会場に提出する。審査会場・番号は事前に発表されたもの(集まれ放送委員会<http://kanakousiken.nomaki.jp/housou/>)を封筒・CD-R・DVD-Rに記入しておくこと。

※参加申込をメールで行った学校は校長印が押してある参加申込書を同封すること。（情報部門のみ）

11. 表彰

教育長賞 アナウンス・朗読・AP・VM 情報総合1位

高文連会長賞 アナウンス・朗読 2位～6位、AP2位、VM2位～3位

相鉄賞 情報課題・情報自由 1位～4位(教育長賞を除く)

神奈川工科大学賞 情報課題・情報自由 1位

(教育長賞・高文連会長賞・相鉄賞は、1月実施の県高文連総合閉会式にて表彰)

優秀賞 上記各賞を除く上位者から アナウンス・朗読 各6名、AP4作品・VM3作品

奨励賞 上記各賞を除く上位者から アナウンス・朗読 各12名、AP4作品・VM4作品

大会当日は受賞者には高視研会長賞を授与いたします

※表彰数は上記各賞数を上限として参加本数により変動することがあります

12. 上位大会への推薦

2018全国高等学校総合文化祭長野大会（2018年8月上旬実施）へ推薦されるもの

アナウンス・朗読 各3名 AP 1作品 VM 2作品

※但し、同一校から同一部門に推薦される本数は1名・1本とする。

また、前年に全総文祭に推薦された生徒は、同一部門では推薦されない。

第15回関東地区高校放送コンクール神奈川大会（2018年1月28日実施）

アナウンス3組 朗読3名 AP 1作品 VM 1作品

※但し、2017全国高等学校総合文化祭長野大会へ推薦されたものを除く

2018 I T夢コンテスト（2018年7月実施）へ推薦（書類審査免除）されるもの
情報部門各1位のもの。

13. 県高等学校総合文化祭放送情報部門諸規定

※次年度の全国総合文化祭放送部門参加要領に準ずる。

全国総合文化祭放送部門参加要項（2018長野大会） 参照

A アナウンス部門

①内容： 神奈川県地域の話題から、全国の仲間に伝える内容のオリジナル原稿を作り、発表する。

校内の話題は不可。

インターネットから題材を選ぶことは可とするが、必ずその場所に行き、写真を撮り、取材をして原稿をまとめること。

JPEG形式のデジタル静止画像（1枚から5枚）を併用する。

写真は本人もしくは自校生徒が撮影したものとする。（インターネット等からの転用は禁止）

画像編集ソフトを用いて複数の写真を組み合わせたり文字を入れたりすることは可とする。

発表の途中から画像を表示させたいときはこの5枚とは別に黒の画像を入れることができる

②時間： 1分30秒以内。番号、学校名、氏名を含む。

③審査方法： 実演発表形式の100点法審査とする。

④計時： 第1声より読み終わりまで

⑤ラベル： CD本体に部門名・学校名・氏名を記入すること。

⑥規格： JPEG形式デジタル静止画像（解像度1024×768ピクセルとすること）

ア) プロジェクター（1台）よりパソコンからデジタル静止画像を投影。

イ) 画像データはCD-Rにより提出。

ウ) 画像投影は発表者以外の自校生徒が操作。

エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」…と投影順に名前を付ける。

オ) 黒の画像を最初に表示させたいときは「kanakita00」とする。

⑦原稿： 横置き縦書きワープロ打ちA4原稿を例（HP上に記載）の様に2部作成（計時用）して、必要事項を表書きした封筒に入れる。

⑧審査の観点

※校内放送原稿は不可・神奈川との関連が読みとれない原稿は不可・取材したことが不明な原稿は不可

a) 原稿点 （素材の選び方・文章表現の確かさ・内容の深さ）

b) アナウンスの技術点（マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション・プロミネンス・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方）

⑨上位大会への派遣 全国大会は3名、関東大会は各2名ずつ3組派遣

B 朗読部門

①内容： 神奈川県にゆかりのある作家及び作品の中から原文のまま一部選んで原稿とする。

CDによる効果音やBGMを併用することができる。

デジタル静止画像は使用できない。

②時間： 2分以内。番号、学校名、氏名、作者および作品名を含む。

③審査方法： 実演発表審査とする。

④使用CD： 一本のCDに1作品分を再生順に録音したものとする。

⑤再生： SE・BGM再生は発表者以外の自校生徒が自校から持ち込んだ機材を用いて操作する。

⑥計時： 第1声より読み終わりまで。

⑦ラベル： CD本体に部門名学校名氏名を記入すること。

⑧原稿：「作品と神奈川県とのかかわり」を簡単に記入した制作意図を含めA4横置き縦書きワープロ打ち原稿を例の様に2部作成（計時用）して、必要事項を表書きした封筒に入れる。

⑨審査の観点

※「神奈川県とのかかわり」が不明な原稿は不可

a) 原稿点 （作品の選び方・朗読部分の抜き出し方・適切な抽出量）

b) 朗読の技術点（マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション・プロミネンス・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方）

⑩上位大会への派遣 全国大会・関東大会それぞれ3名 合計6名派遣

C オーディオピクチャー（A P）部門

- ①内容：神奈川県に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。
CDによるステレオ音声とJ P E G形式のデジタル静止画像（25画像100MB以内）
を併用する作品。ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問わない。
画像は写真のほかに、絵や文字を使用することができる。
他に権利のある著作物を使用する場合は所定の許諾をとり、原稿に添付すること。
- ②時間：5分以内。
- ③使用CD：一本のオーディオCDに1作品分を再生順に録音。また画像は別のデータCDに保存
オーディオCDと画像CDが区別できるようにCDに明記すること。
音声CDは、提出前にPCではなく、メーカーの異なる複数の民生機において
最後まで問題なく再生できることを確認すること。
- ④録音・再生：ステレオ再生。
- ⑤計時：オーディオCDの音声が始まったところから、オーディオCDの音声を終了したところまで。
- ⑥ラベル：CD本体に部門名、オーディオ・データの別、学校名、氏名を記入
- ⑦審査方法：音声を流しながら、自校生徒によるスライド操作によって発表し100点法により審査する。
- ⑧原稿：A4用紙に例に示す様に2部作成して提出
※Nコン用の番組CUEシートの様式でも構いません。
- ⑨規格：J P E G形式によるデジタル静止画像。
ア) プロジェクトは1台。
イ) 25画像以内、
ウ) 画像データはCD-Rに保存。
エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」…と投影順に附る。
オ) 静止画像のサイズはWXGA（1366×768ピクセル）またはXGA（1024×768ピクセル）
- ⑩審査の観点
a) テーマ点(素材の選び方・APという特性を生かした題材・効果的な表現)
b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・撮影、録音の技術
・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・画像に合った音声の使い方)
- ⑪音源
権利が現存している音源については、正規の手段を用いて各学校で許諾申請をすること。
本大会においてはネット音源も著作権フリー確認がとれたものについては使用を認める。
- ⑫上位大会への派遣 全国大会・関東大会各1組2名合計2組4名派遣

D ビデオメッセージ（V M）部門

- ①内容：神奈川県に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。自校オリジナルのビデオ作品。
- ②時間：5分以内。前後に5秒のテストパターン（形式は自由）を入れる。
- ③計時：番組本体についてのみ行なう。
- ④規格：DVD-Rビデオ形式（NTSC規格、アスペクト比16:9）とする。場合によってはminiDVも可とするが、再生機を持参すること。神奈川大会ではブルーレイは不可とします。
DVDは、提出前にPCではなく、メーカーの異なる複数の民生機において最後まで問題なく再生できることを確認すること。
- ⑤ラベル：DVD本体にマジック等で部門名・学校名・氏名を記入。
- ⑥原稿：A4用紙に例に示す様に2部作成して提出
※Nコン用の番組CUEシートの様式でも構いません。
- ⑦審査の観点
a) テーマ点(素材の選び方・VMという特性を生かした題材・効果的な表現)
b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・録音、録画の技術
・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・などビデオ制作にかかる製作技術)
- ⑧音源
権利が現存している音源については、正規の手段を用いて許諾申請をすること。
本大会においてはネット音源も著作権フリー確認がとれたものについては使用を認める。
- ⑨上位大会への派遣 全国大会は2校4名、関東大会は1組2名、合計3組6名派遣

E. 情報部門

a. 発表方法

- (1) 発表内容は、次のテーマから題材を選択しプレゼンテーションにまとめる。
課題部門：「高校生が考える 10 年後 20 年後の未来社会における問題とその解決」
自由部門：「今を生きる高校生が考える諸問題とその解決法」
※進路のこと、学校のこと、友情について、自分を取り巻く社会問題など
高校生の発想で自由にテーマを決めて発表してください。
- (2) 発表時間：準備・片付けを含めて 8 分以内とする。
- (3) 参加形態：すべて団体扱いとする。団体名の届け出がない場合は「学校代表」とする。
- (4) 発表形式：スクリーン 1 画面によるパワーポイント形式によるプレゼンテーションとする。
ビデオをスライドに含めることは可とするが、それが主体となる発表は不可とする。
1 本につき発表者は 3 名までとする。
- (5) 補足：会場には、以下の発表機器を用意する。
- a. ノートパソコン 2 台
 - b. Windows 7 SP1 または Windows8.1 または Windows10
 - c. パワーポイントビューワーで再生できる形態とする
 - d. マイク 2 本
 - e. 電気スタンド
 - f. 指し棒（またはレーザーポインタ）

b. 審査基準

- a. 発表の内容について（研究・調査を行った上での優れた内容であったか）
- b. 発表について（内容を的確に伝えることができたか）
- c. プレゼンテーション資料について（発表に適した表現豊かなスライドが作成されているか）

c. その他

著作権処理は、各学校で大会開催までに行い、大会運営時には問題の無いように適切に処理すること。

特に、音楽素材を使用する場合は、著作権フリー素材を用いて作成すること。

他のコンテスト等に応募した作品を、このコンテストにそのまま出品することはできないので注意すること。

CD-R にプレゼンテーションデータを保存して、提出してください

台本・スクリプトの提出は必要ありません。

スライドを用いて、自分の言葉で会場にいる皆さんに説明してください。

d. 上位大会への派遣

神奈川工科大学 I T 夢コンテストには両部門各 1 組合計 2 組を派遣する。

14. 原稿に関する規定（放送部門のみ）

- ①原稿はA4用紙に例に示すように作成する。
- ②作品1人（1本）についてアナ・朗・番組部門すべて1部提出する。（計時のため）
情報の台本は必要ない。
- ③原稿と 作品 をA4（角2）の封筒に入れる。
- ④封筒表書の見本

＜アナウンス、朗読＞				＜AP・VM・情報＞					
作 品 名	作 者 名	氏 名	学 校 名	朗 読 部 門	制 作 代 表 者	再 生 時 間	タ イ ト ル	学 校 名	A P 部 門
こ こ ろ	夏 目 漱 石	高 橋 圭 三	県 立 △ ○ 高 等 学 校	[13] 番	神 奈 川 次 郎	4 分 40 秒	お お 青 春	県 立 神 奈 川 高 等 学 校	[22] 番

- 注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。情報部門の再生時間は不要。
- 注意2 [] のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

15. 諸注意

大会当日の運営に関することは、すべて引率教員を通して本部に申し出ること。
作品の返却は、閉会式後に行う。

16. 著作権処理

（1）写真の著作権

アナウンス・AP・情報部門に用いる静止画は、制作者もしくは自校生徒が自ら撮影した画像とする。また自分が手書きで書いた画像をスキャンして取り込んだものも可とする。また一画面に複数の写真を合成したり、文字を入れて作成した写真も1枚と数え、使用できる。インターネットからの画像はそれが発表の主体となる場合は認めない。インターネットからの画像や、他者に権利があると思われる画像を使用する場合は、文書による使用許諾を必ず取ること。

（2）音源の著作権

朗読・AP・VM・情報に用いる音源は、原則として著作権フリー音源とする。ネット上の著作権フリー音源も使用可とする。権利を有する音源を使用する場合は、正規の手段を用いて各学校で許諾申請をすること。